

スティグマされた流動する女性における子育てと母性礼賛—留守児童の母親たちの語りから—

巖俊（京都大学文学研究科修士課程）

1. 問題意識

中国における都市化や都市部と農村部の二元的な戸籍制度により、「留守児童」という社会問題が発生している。そして、「留守児童」に関する議論では、しばしば「親の不在」と「母性実践の不足」が暗黙のうちに前提とされる (Xiao, 2021:67)。また、外で働く親＝「留守児童の問題を引き起こす主体」というイメージも散見される。このような背景の下で、「流動する女性がなぜスティグマの対象とされやすいのか」、「彼女たちはどのような母性実践を行っているのか」という問いが生じることとなる。

2. 先行研究のレビュー

流動する女性に関する多くの先行研究は、公私二元論に基づく議論が多い。例えば、男性人口の流動要因が経済的理由であるのに対し、女性人口の流動要因は性別役割分業の遂行であり、夫の流動に付随するものであると解釈されている (Duan, 2009)。

過去の戸籍制度に基づく都市部と農村部の二重構造は弱まっているものの、農村から都市へ移住した人々は依然として都市での疎外感やアイデンティティの獲得困難、子どもの就学の問題などに直面している (Chen, 2005)。そして、流動する女性は、都市部に移住してから「働くことの大変さ」、「結婚の厳しさ」、「子育ての難しさ」といった困難にしばしば直面する (趙, 2020)。Xu は、長時間労働、家庭内の性別分業や「新中間階級」の教育理念などが流動女性を弱い立場に追い込む要因となっている可能性が高いと述べている (2021)。

一方、流動する女性の母性に対する認識と実践への注目も増えている。一部の研究者は、インタビューや現地調査を通じて、農村から都市部に流動して家事使用人として働いている女性が、「段階的な流動」と「遠隔的ケア」を通じて母性実践を行っていることを明らかにした。また、女性に対する経済的支援が母性の重要な要素である一方で、生活ケアも母性実践における道徳的なストレスや感情的な負担の一部として残っている (Xiao, 2021)。

先行研究には以下の不足点もある。第一に、女性自身の声が不在である。実践的な母性に関する議論は行われているが、前提として女性たちに母性愛というイデオロギーが内面化されている傾向にあると考えられる。第二に、長期的な考察が不足している。先行研究はしばしば特定の時点での母性実践に焦点を当てており、女性たちのライフコースからの考察が数少ない。

3. 研究目的

本研究の目的は以下の3点とする。1. 中国 SNS における留守児童の母親たちをめぐる言説を検討しながら、中国社会における理想的な母親像がどのようなものかを明らかにする。2. 流動する女性である留守児童の母親たちを対象として半構造化インタビュー調査を行い、彼女たちの日常的な育児実践に注目し、彼女たち自身が母性実践と母性に対してどのような認識を持っているのかを明らかにする。3. 構築された理想的な母親像と母親自身の育児実践とのずれから、中国における母子規範を再考する。

4. 研究方法

(1) 言説分析：中国における「小紅書」という SNS 上で留守児童とその母親をめぐる言説を収集し、分析することで、中国社会における理想的な母親像を明らかにする。プラットフォーム上の投稿分析と、コメント分析という二つの方面から分析する。(2) 半構造化インタビュー調査：10名の留守児童の母親たちを対象に半構造化インタビューを行う予定である。一人当たり3回ずつ、毎回30-45分前後である。インタビューによって彼女たちの日常的な育児実践や母性に対する認識を深く探求するため、調査内容は、主に「子どもの状況について」、「母性への認識と具体的な母性実践」、「将来の計画について」という三つの方面からインタビューする。

キーワード：母性、流動女性、言説分析